

○市内宿泊施設について

そのほかの質問  
・若者のイベント開催について

新風会・公明  
松本聖司郎  
議員



**問** 勝山市内の宿泊施設の年間利用者数と来訪者数にかなりの差があると思うが、駅からの距離も遠い施設が多く、駐車場も少ない宿が目立ち、都会から来た観光客は駅に着いて驚く方も多い。今後、県は140万人の来訪者を見込んでいる。宿泊施設の見直しと改善について市の見解を伺う。

**答** 市内宿泊者数の8割は、ホテルハーヴェストと勝山ニューホテルの2箇所となっており、そのほかに定員が30名前後の小規模な宿泊施設などがある。勝山ニューホテルではネットでの情報発信や予約システム、WiFi整備などのサービス提供を行っているが、小規模な宿泊施設はネット環境等が整っていない状況である。市としては、小規模な宿泊施設への改修補助を行い、施設の魅力向上や受入環境の整備を図ることにより、宿泊者数の増加に繋げていきたいと考えている。

申請の際には、「勝山市おもてなし商業支援コーデイネーター」の指導により各宿泊施設の強み、弱みを確認した上で、中期事業計画を策定していただく。この計画に沿って改修を行うことにより、強みを伸ばし、サービス向上に努めていただくことを想定している。

各施設で状況は違いますが、SNSを活用した情報発信などターゲットを絞った戦略、例えばイスラム教徒への対応である「ムスリムフレンドリー」など新たな顧客の獲得につながる可能性がある。

おもてなしのサービス向上により宿泊者数の増加が図れると考えているので、旅館業組合などに周知していく。

令和2年度予算におい

○SDGsの取り組みによるまちづくりについて  
○日本遺産認定について

そのほかの質問  
・稼ぐ観光戦略について  
・中学校再編と勝山高校との関係について

新風会・公明  
竹内和順  
議員



**問** 日本は、持続可能な開発目標（SDGs）達成に向けて取組んでいる。令和2年度当初予算案にもSDGsの観点を取り入れた第6次勝山市総合計画を策定するための事業費が盛り込まれている。勝山市のエコミュージアム構想としてジオパークによるまちづくりはまさしくSDGsそのものと考ええる。

**答** 今後策定する第6次勝山市総合計画には、SDGsの理念・枠組みをしっかりと盛り込み、市民と一体となってSDGsを推進するとともに地方創生の実現に向けて取り組む。

**問** 福井県と福井市、勝山市で共同提案した平泉寺と一乗谷を主要な構成資産とする日本遺産の提案が昨年5月20日に認定されたことは、記憶に新しい。

さて、日本遺産認定の市民の皆様の認知度はどれほどのものか。勝山市城下町内を横断する七里壁も日本遺産である。今後、これら勝山市の日本遺産とどのように向き合っていくか所見を伺う。

**答** 認定1年目ということで、情報発信は必ずしも十分とは言えない面もあったが、今後、「福井・勝山日本遺産活用推進協議会」と連携を図りながら、より積極的な情報発信に努めたい。また、2月13日の「日本遺産の日」についても、効果的な内容を検討していきたい。

勝山市では、令和2年度から文化財保存活用地域計画の策定を2年間かけて行う予定で、市内の文化財を再確認し、保存と活用につなげていくとともに、「歴史まちづくり法」の活用の可能性についても、専門家の意見を聞きながら研究していく。

されたことは、記憶に新